

1 3つの役割 ～ 学校と先生を知る場

授業参観は三つの役割があります。

一つ目は、保護者の皆さんに生徒たちの成長を感じてもらい、学校教育に関心をもってもらうということ。

二つ目は、担任の先生と保護者の皆さんと信頼関係を深めるということ。生徒は学校だけ、家庭だけで育てるものではなく、学校と家庭の双方が力を合わせて育てるものだと思います。保護者の皆さんは、「どんな先生がどんなふうに自分の子どもを指導しているのか」に注目しますが、教師も「授業を通して、自分という人間を保護者に知ってもらいたい」と思って授業を行っています。

三つ目は、保護者同士の親睦を深めるということ。

2 自分の子ども、周りの子どもを見るときポイント

授業参観では、お子さんのよいところをたくさん見つけてください。「挙手して発言しているかどうか」は勿論のこと、手を挙げていなくても、先生の問いかけに対して、うなづくなどして理解している様子があれば、それもOKです。そのほか、板書をノートに写せているか、正しい姿勢で座れているか、集中して聞いているかといった視点も必要です。また、授業を行う教師も授業の始めに「今日の授業のねらい」を示し、終わりには「授業のねらいに沿ったまとめ」をします。従って、以前より、ご家庭でお子さんと話がしやすくなっています。

また、クラスの様子も見てください。50分の授業で、よく発表する生徒、元気な生徒、おとなしい生徒…様々な個性を持った生徒がいることが分かりますと思います。例えば、我が子が「Aさんが嫌なことを言った」と聞いた時、Aさんの様子を知らないで「うちの子はいじめられている」と早合点してしまう可能性があります。しかし、授業参観でAさんの様子を知っていれば、悪意のある嫌がらせではなく、むしろ好意を持っている場合もあり、少し様子をみようとして冷静になれます。

3 授業をする先生を見るポイント

教師は、ふだんの授業は勿論ですが、授業参観でも準備に時間をかけ、どの生徒も輝けるように意識して授業をしています。その一端を述べますと、

- ・ 授業の始めに今日の授業の「ねらい(めあて)」を示し、
- ・ 教材を活用し工夫し、
- ・ 指名する時は多くの子どもにあて、
- ・ 授業の終わりに「振り返り(まとめ)」を行っています。このような視点で参観して欲しいです。



4 掲示物にも注目

掲示物にも注目してください。学級目標、今日の目標、学級の係など、学級経営に関するものが掲示してあります。これらをご覧になると、「どのようなクラスにしたいのか」教師の方針が分かります。また、クラスの活動の様子が見えてきます。

5 授業参観後は

授業参観を見て終わりではなく、お子さんと話をしてください。このことで、学びへの意欲がグッと伸ばすことができます。

まずは、よかったところをほめて。ときとして、我が子の言動で気になることを見つけるかもしれませんが、それらを注意するよりも先に、ほめてください。その際、気をつけたいことは、「Bさんより発言していたね」などと人と比較しないということです。何故なら、周囲の人の順位ばかりを気にするようになり、失敗を避けたり、1番以外は駄目だという思考になったりしてしまうからです。

比較するのであれば、過去の子ども自身がよいでしょう。「去年の授業参観より集中していたね」「今年は声がおおきかったね」と成長が分かるように具体的にほめてください。

気になることを見つけた場合は、まずは理由を聞いてください。例えば、分かっていたけど発言しなかったのであれば、「保護者がたいくさんいて緊張していたんだね」と我が子の気持ちを受け止めてください。その上で、「ノートにはきちんと答えが書いてあったね」「Cさんの発言をよい姿勢で聞いていたね」などと違う視点からよいところをほめて、自信を持たせてください。自信をつけることで、「復習でもしようかな」と子どもは思い始めます。

大切なのは、授業中間違えたとしても、失敗を責めないということです。先生は「間違いを恐れずに自分の考えを言おう」と授業を進めています。誰かが間違ったことは、クラスで共有しみんな理解できればいいのです。

また、「今日の授業の先生は、こんなによいところがあったね」と先生のよかったところもほめてください。例えば、我が子が「D先生は宿題が多くて嫌だ」と言ったとします。そんなときは、我が子の気持ちを理解しつつも「D先生はそれだけ熱心なのよ」と諭してください。そうすれば、教師とお子さんの信頼関係はさらに深まり、悩みが生じた場合は「先生にも相談しよう」となるのではないのでしょうか。

6 人間、欠点はすばやく見抜くが…

今まで、「ほめてください」「自信を持たせてください」「失敗を責めないでください」とお願いしてきましたが、そう容易くできるものではありません。人間は欠点を素早く見抜く習性があるようです。しかし、誰も欠点があり簡単に直りません。そのため、教師は人間観察のトレーニングを受けています。保護者の皆さんも意識して、見方を変えるトレーニングをやってみては如何でしょうか。例えば、「落ち着きがない子は興味がいっぱいある子」、「よく泣く子は感受性豊かな子」、「すぐ怒る子は正義感が強い子」、「困った子は困っている子」、「やるおうとしないはやり方が分からない子」、「ふざける子はできないことを隠したい子」、「じゃまをする子は自分だけできないのは嫌だと思ってる子」というふうに。きっと、会話が違ってくると思います。

本校では、お子さんの個性を伸長できるよう、また集団生活で自分の力が発揮できる、指導・支援に邁進していきます。保護者の皆さんのご理解・ご協力の程、よろしくお願ひ致します。

